



# 筑波大学 生存ダイナミクス研究センター

Life Science Center for Survival Dynamics, Tsukuba Advanced Research Alliance (TARA)  
University of Tsukuba



# 「生存ダイナミクス研究センター」設立にあたって



センター長  
**林 純一**  
Jun-ichi HAYASHI

平成6年5月、ノーベル賞受賞者の江崎玲於奈先生のご発案により、本センターの前身の筑波大学先端学際領域研究センターが設置され、その後、平成22年10月に生命領域学際研究センターに改組されました。

平成30年4月に本センターは、細胞・個体の遺伝情報やシグナル機能の解明を基盤として、環境変化へのダイナミックな応答を「生物の生存戦略」と捉えて研究を深化させ、生命動態科学の新たな道を切り拓くことを目的に『生存ダイナミクス研究センター』（Life Science Center for Survival Dynamics, Tsukuba Advanced Research Alliance (TARA)）として生まれ変わりました。

ヒトの生活の基盤となる健康・食・医療は、地球温暖化、生物多様性、少子・高齢化や生殖医療等の諸課題と密接に関係しており、地球規模の関心事として社会全般に広がっていますが、それらの問題を解く鍵は全て生命科学に潜んでいると言っても過言ではありません。本センターでは、今後、人類が環境と調和し、持続可能な発展を遂げるために、環境への応答や防御あるいは進化といった生命の未知なる部分を解明し、生物の潜在的な生存戦略を発掘し理解することを目的としています。

本センターの代謝・免疫・生殖・循環等の各研究分野では、受容体、核内因子や情報分子などの三次元立体構造や、因子間相互作用、これらの制御機構を解析し、様々な生命現象をつかさどるタンパク質と調節因子（高分子や低分子）の機能解析をさらに発展させていきたいと考えています。

また、生物の生存戦略の理解は、基礎科学研究を展開して医療技術の開発を推進し、その成果を活用した健康寿命の延伸を目指す国家の政策にも合致しています。さらに、基礎科学研究の探求を通じて、人類と環境が調和し、持続可能な発展と、生物の環境への潜在的な応答、防御あるいは進化といった事象を通して、再生可能な社会の創造に貢献したいと考えます。

生存ダイナミクス研究センターでは、これまでの医学、生物学、農学、薬学、健康科学という縦割りの研究システムから前進して、相互の連携により、ダイナミックで斬新な研究体制を構築し、新時代のニーズに応えられる成果をあげていくことを決意しております。





# 生存ダイナミクス研究センターの運営体制

TARA センターでは生命領域学際研究センターとして改組された平成 22 年度以降、1 つの研究アспект「生命の応答と変換」の下で、新たな生命科学研究を推進する学際研究拠点の形成を目指してきました。平成 30 年 4 月に改組した「生存ダイナミクス研究センター (TARA センター)」では更なる再編を通じ、「代謝／免疫／循環／生殖」の各研究を互いに横断しつつ、構造生物学や数理統計学などの新たな手法も導入し、生命活動の中で起こる様々な現象を、環境の変化に応答する「生物の生存戦略」として位置づけて観察・解析し、細胞・個体の遺伝情報やシグナル機能からその理解を試みます。

研究の実施に際して、TARA センターでは敢えて研究プロジェクトを研究部門として固定せず、研究者間の相互の特性を最大限に活かしながら協力して研究を推進するユニークな研究

体制を構築・発展させて行きたいと考えています。また、基礎研究の活性化を進めるとともに、新しい研究領域の開拓を目指し、異種研究組織の研究者の連合・融合による最先端の研究を展開することにより、研究分野の更なる拡充を目指します。設備面では、最先端の分析機器を集結させ、学内外の研究者が広く利用できる体制を整え、利用者とセンターとの多様な共同研究を可能とする体制を構築します。

TARA センターは従来掲げてきた 3 つの方針「知の深化 (=独創的研究の展開)」・「知の活用 (=新たな社会的価値の創出)」・「知の萌芽 (=若手研究者の育成)」を重視しつつ、最先端の国際的研究成果を発信し、社会生活基盤の諸課題の解決に寄与するとともに、戦略的かつ計画的に国際的視野を持つ優れた研究者の育成を進めて参ります。

## TARA センター組織図

### TARA Organization

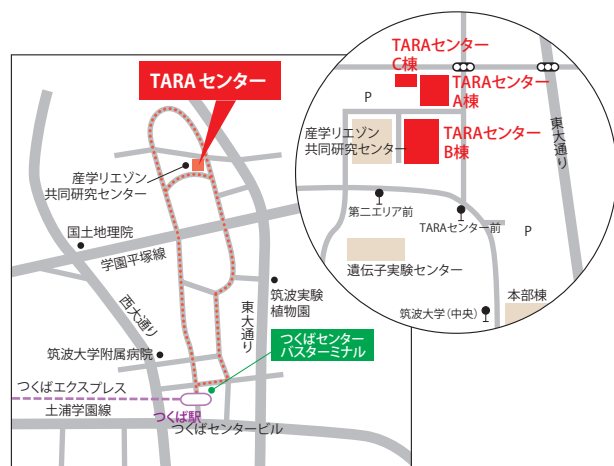




## 沿革

|          |                              |
|----------|------------------------------|
| 平成 4年 4月 | 江崎玲於奈学長就任                    |
| 平成 4年 5月 | TARA構想(研究審議会了承)              |
| 平成 5年 1月 | TARAセンター準備室として<br>科学技術相談室の設置 |
| 平成 5年10月 | TARAセンター設置準備委員会発足            |
| 平成 6年 5月 | TARAセンター設置(文部省令12号)          |
| 平成 6年 7月 | 村上和雄センター長就任                  |
| 平成 8年 8月 | TARAセンターA棟 完成                |
| 平成10年 3月 | TARAセンターB棟 完成                |
| 平成10年 4月 | 北原保雄学長就任                     |
| 平成10年 4月 | 古川尚道センター長就任                  |
| 平成12年 4月 | 後藤勝年センター長就任                  |
| 平成16年 4月 | 国立大学法人筑波大学を設置                |
| 平成16年 4月 | 岩崎洋一学長就任                     |
| 平成16年 4月 | 瀧田宏樹センター長就任                  |
| 平成18年 4月 | 深水昭吉センター長就任                  |
| 平成21年 4月 | 山田信博学長就任                     |
| 平成22年10月 | 生命領域学際研究センターへ改組              |
| 平成22年10月 | 浅島誠センター長就任                   |
| 平成24年 6月 | TARAセンターC棟 完成                |
| 平成25年 4月 | 永田恭介学長就任                     |
| 平成28年 4月 | 花岡文雄センター長就任                  |
| 平成30年 4月 | 生存ダイナミクス研究センターへ改組            |
| 平成30年12月 | 林純一センター長就任                   |

## アクセス



### ■ つくばエクスプレス(TX)

「秋葉原」駅から「つくば」駅まで最速45分。  
つくばセンター6番バス乗り場から「筑波大学中央」行き、または「筑波大学循環(左回り・右回り)」に乗り、「TARAセンター前」又は「第二エリア前」下車。

### ■ JR常磐線

「上野」駅から約1時間、「水戸」駅から約50分。  
「土浦」駅からは、2番バス乗り場から「筑波大学中央」行き。  
「荒川沖」駅からは、東口バス乗り場から「筑波大学中央」行き。  
「ひたち野うしく」駅からは、2番バス乗り場から「筑波大学中央」行き。「TARAセンター前」又は「第二エリア前」下車。

### ■ 高速バス

東京駅八重洲南口から「筑波大学」行き乗車、約75分。  
終点「筑波大学」バス停下車。徒歩約10分。  
または、東京駅八重洲南口から「つくばセンター」行き乗車。  
つくばセンター6番バス乗り場から「筑波大学中央」行き、または「筑波大学循環(左回り・右回り)」に乗り、「TARAセンター前」又は「第二エリア前」下車。

### ■ 自動車

常磐自動車道桜土浦IC。下車、筑波方面へ左折、大角豆交差点を右折して県道55号線(東大通り)を北上、筑波大学中央口左折。(桜土浦ICから約8.5km)



## 筑波大学生存ダイナミクス研究センター

Life Science Center for Survival Dynamics, Tsukuba Advanced Research Alliance (TARA)  
University of Tsukuba

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

☎029-853-6082 FAX029-853-6074 E-mail: tara@tara.tsukuba.ac.jp

<http://www.tara.tsukuba.ac.jp>

\*当センターのロゴは茶色が大地、白色が筑波大学の地図、青色が空(宇宙)を表しています。

